

—関連施設だより—

四十周年記念を迎えて

原口 秀司

一般財団法人慈山会 医学研究所付属 坪井病院

Over the 40th Anniversary

Shuji Haraguchi

Tsuboi Cancer Center Hospital

坪井病院（写真1）は、故坪井榮孝先生（元日本医師会会長・世界医師会会長，昭和27年卒，平成28年没）御自身が放射線科医師として活躍された国立がん研究センターと同じレベルのがんの診断や治療を，先生の故郷である福島県郡山市民も受けられることを目指して設立した病院です。1977年4月10日に開院してから本年開院40周年を迎えました。4月15日には郡山市ホテルハマツにおいて山下精彦常務理事，弦間昭彦学長，越野立夫同窓会会長等をお迎えし，開院40周年記念行事を盛大に執り行い（写真2），福島県の震災からの復興と地域医療へのさらなる貢献を誓いました。

当院は，許可病床数230床，常勤医21名（呼吸器内科5名，外科3名，消化器外科5名，内科1名，婦人科3名，放射線科1名，麻酔科1名，病理2名）が在籍しています。現在も日本医科大学との結びつきは強く，現理事長は故榮孝先生のご長男の永保先生（S60年卒），常勤医では安藤真弘副院長兼化学療法部部长（S63年卒），山下直行副院長兼消化器外科部部长（H2年卒）が同窓であり，内田英二教授より派遣して頂いております。

当院は福島県で最初に地域がん診療拠点病院（私立病院としては全国初）に認定された伝統ある病院です。また，当院で学んだ多くの医師が第一線で活躍されていて，呼吸器内科・外科だけをみても，弦間昭彦日本医科大学学長，小林国彦埼玉国際医療センター呼吸器内科教授，吉村明修東京医科大学臨床腫瘍科教授，池田徳彦東京医科大学呼吸器外科・甲状腺外科教授など日本をリードするそうそうたるメンバーが巣立っております。



写真1

連絡先：原口秀司 〒963-0197 福島県郡山市安積町長久保一丁目10番地13

URL：http://www.tsuboi-hp.or.jp

E-mail：shuji@nms.ac.jp

Journal Website（http://www2.nms.ac.jp/jmanms/）



写真2

当院は、生命の尊厳と人間愛を基調理念として地域におけるがん専門病院としての自覚の元に高い水準の医療技術と全人的医療を提供することによって、地域社会に奉仕することを目的にしています。開院以来の基本方針は4本の柱、すなわち「予防啓発」「早期発見」「集学的治療」「ホスピスケア」であり、これらは国のがん対策の根幹でもあります。しかし、先人達の努力にもかかわらず、福島県では2011年には約4人に1人ががんで死亡しています。また、福島県の医療施設に従事する医師数は2017年12月1日現在2,134人であり、震災前より115人増加しましたが、188.8人/10万人（全国第43位）と全国よりも44.8人/10万人少ない医療過疎の状況が続いています。

このようにがんを取り巻く現況は厳しいですが、当院はより一層のがん診療の充実と地域貢献を目指して、新しい試みを続けています。震災後には外科を大変革し胸腔鏡や腹腔鏡などの鏡視下手術に基軸を移して低侵襲ながん手術を行い早期社会復帰に貢献しています。呼吸器内科では、がんの組織型や遺伝子変異解析を元にした個別化治療を行い、分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害剤などを使い分け、福島県最多の症例数を経験しています。また、がん以外の病気も力を入れ、睡眠時無呼吸症候群では県内最多の患者数（約700人）を誇っております。その他、リハビリテーションセンター、リンパ浮腫外来、病理外来、薬剤師外来と続々と地域に先駆け新機軸を打ち出しています。また、薬剤部は福島県で初めて日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師研修施設に認定され注目を集めています。

最後に東日本大震災と原発事故後6年以上経過した現在でも福島県内外で約7万7千人が避難している厳しい状況です。今後も地域がん診療、福島県の復興に興味のある先生方のお力添えを頂ければ幸いです。

（受付：2017年5月10日）